

鳥取県の推計人口（年報）

【令和4年10月～令和5年9月】

令和5年12月4日公表

鳥取県総務部統計課

目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の推計人口	
1 推計人口と世帯数	3
2 年齢3区分別人口	4
II 人口動態	
1 概況	7
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	7
(2) 月別自然動態	8
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	8
(2) 月別社会動態	9
(3) 都道府県別(外国を含む)、男女別社会動態	9
(4) ブロック別の県外転入・転出	11
(5) 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数	11
(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態	12
III 市町村別推計人口	
1 市町村別の推計人口	13
2 年齢3区分別人口	
(1) 年少人口	14
(2) 生産年齢人口	14
(3) 老年人口	14
IV 市町村人口動態	
1 人口増減	15
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	16
(2) 月別自然動態	17
(3) 男女別自然動態	17
3 社会動態	
(1) 市町村別社会動態	18
(2) 県内移動	19
(3) 県外転入・県外転出	20
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出	21
＜参考＞外国人(国籍不詳を含む)の推計人口	25

用語の説明

1 人口性比

女性を100としたときの男性の割合

2 年少人口

0歳～14歳の人口をいう。

3 生産年齢人口

15歳～64歳の人口をいう。

4 老年人口

65歳以上の人口をいう。

5 年少人口指数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

6 老年人口指数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

7 従属人口指数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

8 老年化指数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

9 動態

- (1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
- (2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
- (3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

10 移動

- (1) 移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
- (2) 実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
- (3) 県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
- (4) 県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
- (5) 県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
- (6) 県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
- (7) 転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

11 出生率及び死亡率

- (1) 出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
- (2) 死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 2 移動者の年齢

令和5年10月1日現在の満年齢による。

1 3 自然増減数

出生者数から死亡者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

1 4 自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 5 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

1 6 社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 7 ブロック別区分

北海道…北海道

東 北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関 東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中 部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近 畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中 国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四 国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九 州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

1 8 地域別区分

東 部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中 部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西 部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

1 9 市郡別

市 部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡 部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利 用 上 の 注 意

- 1 鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。なお、県内移動については、転入日をもって転出日としている。
- 2 推計人口とは、令和2年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。
- 3 平成27年国勢調査国勢調査結果に毎月の転入者等の届出数を加減した令和2年10月1日現在の推計人口及び世帯数と、令和2年国勢調査結果に差が生じているので、平成27年国勢調査結果までさかのぼり、平成27年11月以降の推計値を補正している。
- 4 人口及び世帯の移動数は、令和4年10月から令和5年9月までの年間数値であり、市町村表記は令和5年9月末現在のものにて記載している。

調査結果の概要

I 鳥取県の推計人口

1 推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は537,318人、前年に比べ6,297人減少し、平成8年以降28年連続の減少となった。

令和5年10月1日現在の鳥取県の推計人口は537,318人で、前年に比べ6,297人減少した。

昭和50年(581,311人)以降の推移をみると、昭和63年の616,371人をピークに減少傾向となり、平成6年及び7年は増加したものの、平成8年以降は28年連続の減少となった。この間、平成20年に60万人台、平成22年に59万人台、平成25年に58万人台、平成28年に57万人台を割り、平成29年から平成30年は56万人台で推移し、令和元年では56万人台、令和3年では55万人台、令和5年では54万人台を割った。

男女別人口をみると、男性257,165人、女性280,153人で、人口性比は91.8であった。

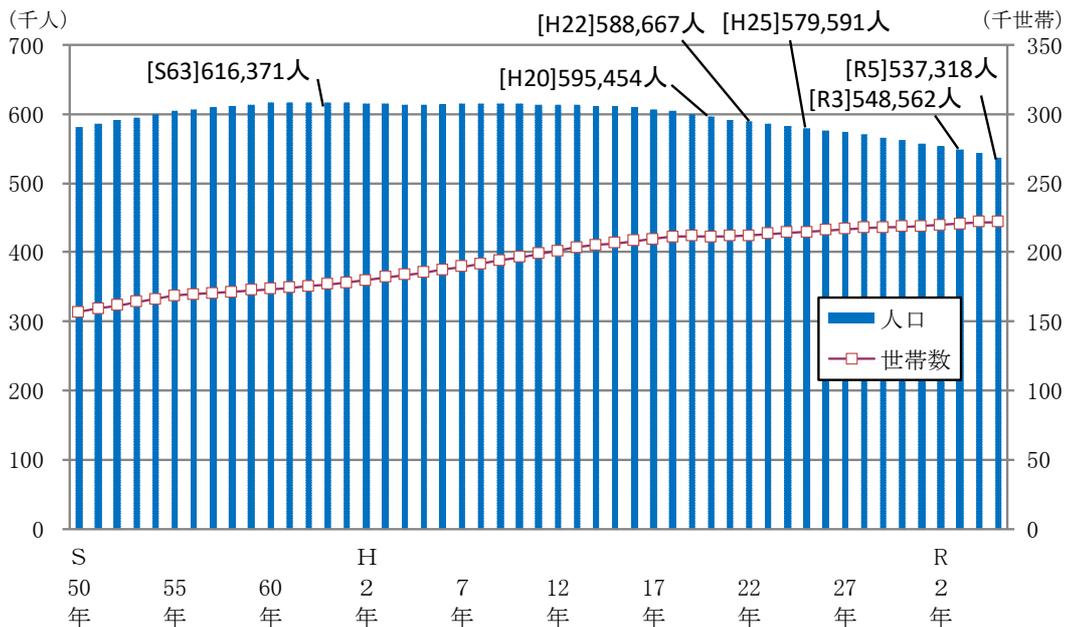
外国人の推計人口(国籍不詳を含む。以下同じ。)は10,217人(県の推計人口に占める割合は1.9%)で前年に比べ501人増加し、2年連続の増加となった。男女別にみると、男性4,465人、女性5,752人で、人口性比は77.6であった。

世帯数は、221,780世帯で、この1年間で132世帯増加した。

昭和50年(156,826世帯)以降増加が続き、平成12年では20万世帯を超え、令和5年では過去最大となった。1世帯当たりの人員は2.42で減少が続いている。

(図1、表1、表2、統計表第1表)

図1 人口と世帯数の推移



注1)各年の人口は10月1日現在の人口による。

注2)表示年は国勢調査実施年で国勢調査人口、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表1 推計人口と世帯数(過去5年間の推移)

年	人口			対前年			人口性比	世帯数	1世帯当たりの人
	総数	男	女	総数	男	女			
R元年	557,343	266,334	291,009	-4,434	-2,019	-2,415	91.5	218,841	2.55
	8,864	3,757	5,107	1,006	449	557	73.6		
R2年	553,407	264,432	288,975	-3,936	-1,902	-2,034	91.5	219,742	2.52
	9,428	4,045	5,383	564	288	276	75.1		
R3年	548,562	262,227	286,335	-4,845	-2,205	-2,640	91.6	220,693	2.49
	9,230	3,973	5,257	-198	-72	-126	75.6		
R4年	543,615	260,026	283,589	-4,947	-2,201	-2,746	91.7	221,648	2.45
	9,716	4,255	5,461	486	282	204	77.9		
R5年	537,318	257,165	280,153	-6,297	-2,861	-3,436	91.8	221,780	2.42
	10,217	4,465	5,752	501	210	291	77.6		

注1)下段は外国人で内数

注2)外国人は国籍不詳を含む。

2 年齢3区分別人口

老年人口は、741人減少し、平成23年以来12年ぶりの減少となった。
 年齢3区分別の構成割合は、年少人口は12.2%、生産年齢人口は54.3%で、
 ともに過去最低、老年人口は33.5%で過去最高となった。

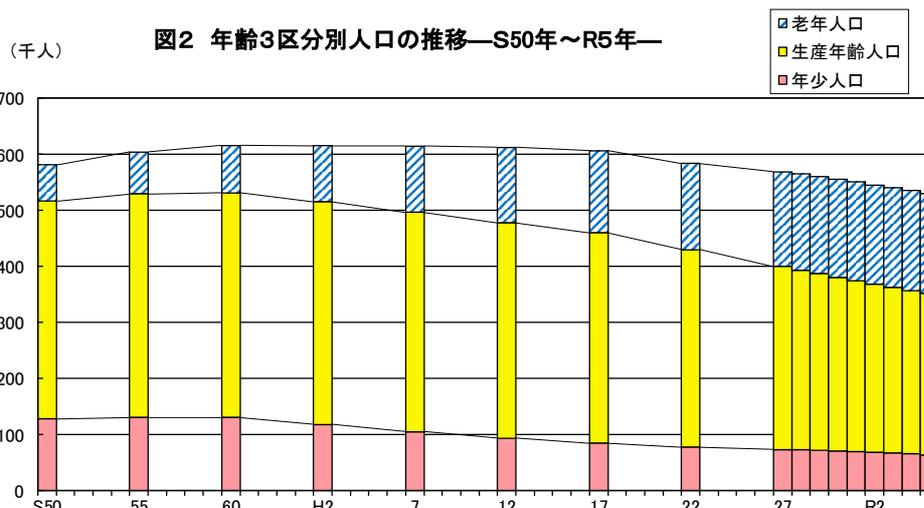
年齢3区分別にみると、年少人口は64,380人で前年（令和4年10月1日現在）に比べ1,543人減少、生産年齢人口は287,495人で4,013人減少、老年人口は177,414人で741人減少した。（年齢3区分人口に年齢不詳は含まない。以下同じ。）

昭和50年以降の推移をみると、年少人口は昭和60年の130,668人をピークに減少に転じ、平成12年に10万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は同じく昭和60年の400,717人をピークに、以降減少が続いている。老年人口は平成7年に11万人台、平成28年からは17万人台となり増加傾向であるが、令和5年は平成23年以来12年ぶりの減少となった。

人口構成割合を前年と比べると、年少人口は12.2%で0.1ポイント低下し、生産年齢人口は54.3%で0.1ポイント低下し、ともに過去最低となった。老年人口は33.5%で0.2ポイント上昇し、過去最高となった。

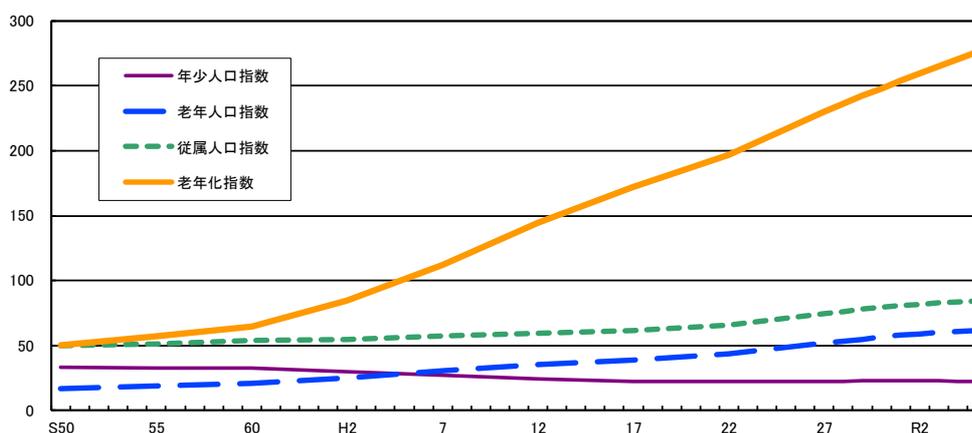
年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は84.1で0.4ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は22.4で0.2ポイント低下、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は61.7で0.6ポイント上昇した。また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は275.6で5.4ポイント上昇し、老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は過去最高となった。

（図2、図3、図4-1、図4-2、表2、表3、統計表第1表）



注) 表示年は国勢調査実施年で国勢調査値、その他の年は国勢調査を基準として推計したものである。

図3 年齢構成指数の推移—S50年～R5年



注) 表示年は国勢調査実施年で国勢調査値、その他の年は国勢調査を基準として推計したものである。

図4-1 人口ピラミッド

県全体 537,318人

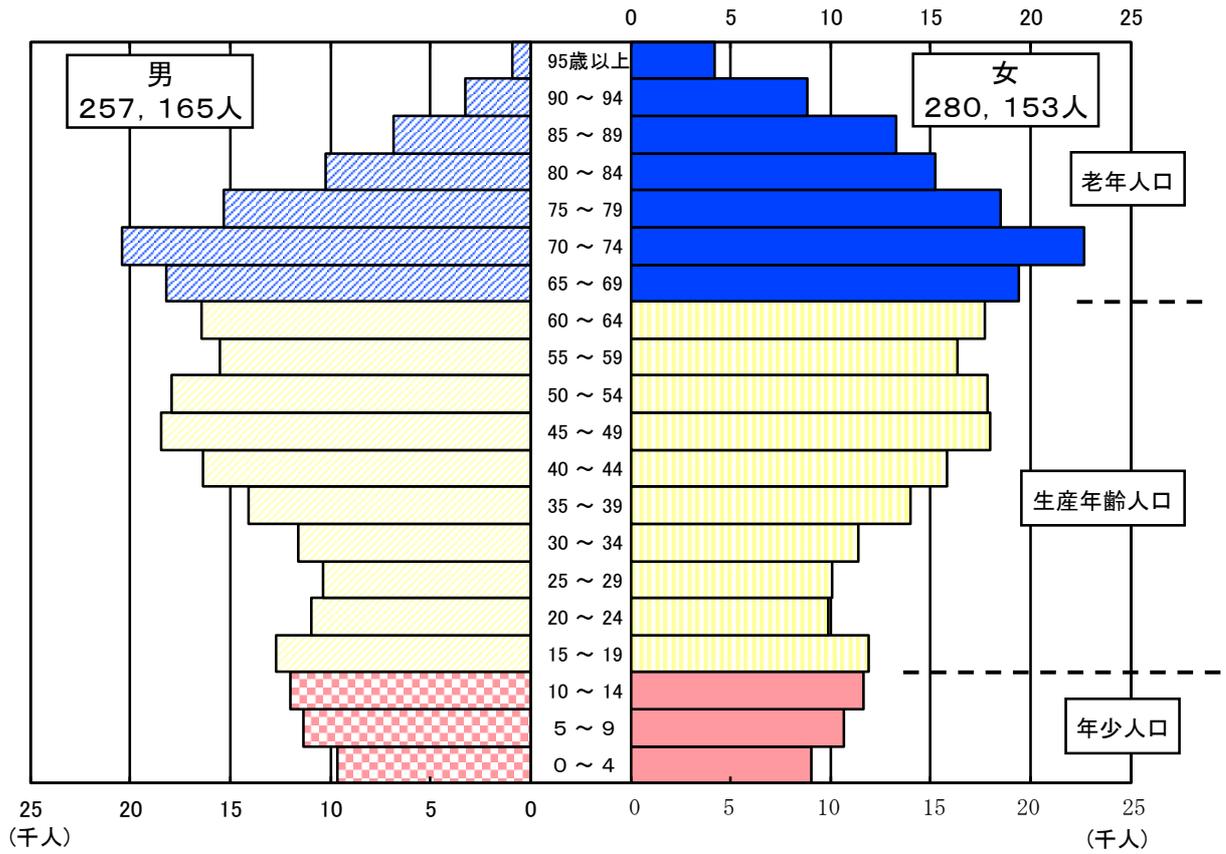
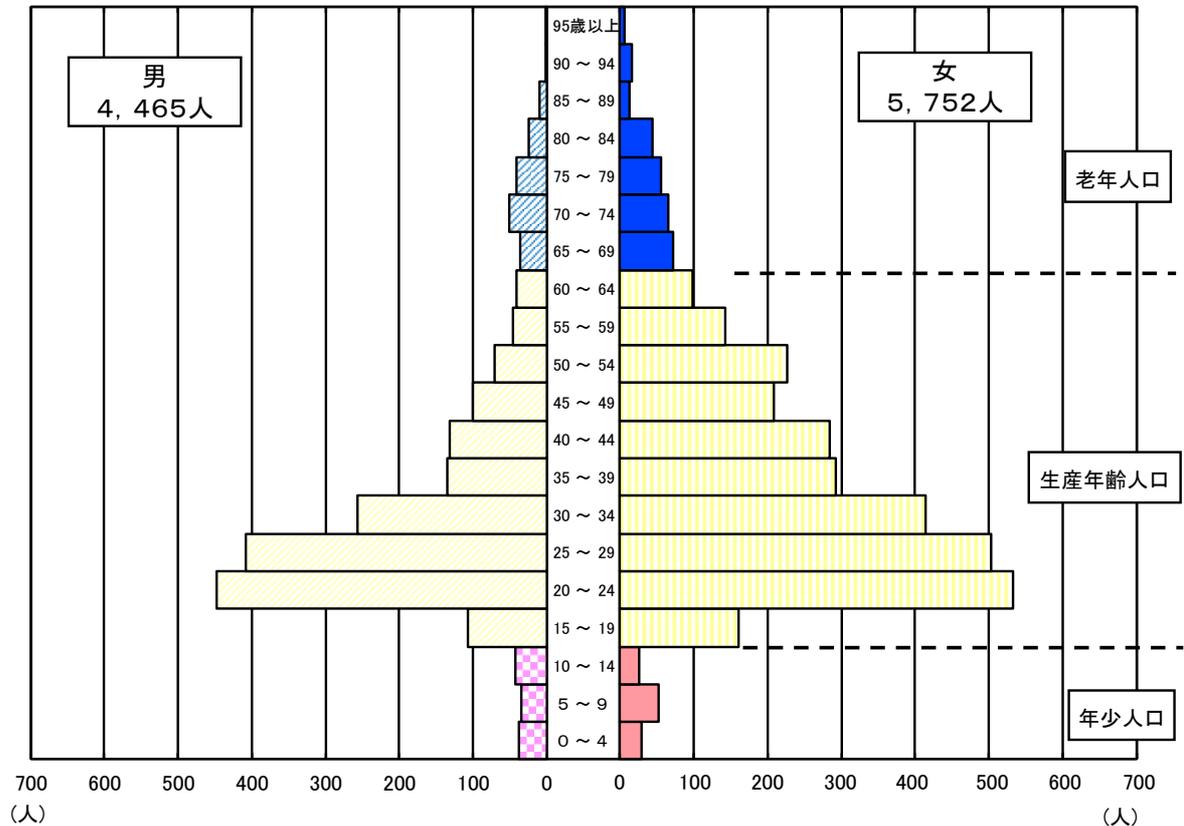


図4-2 人口ピラミッド(外国人)

県全体 10,217人



注) 外国人は国籍不詳を含む

表2 年齢5歳階級別人口

(単位:人)

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	537,318	257,165	280,153	91.8	10,217	4,465	5,752	77.6
0～4歳	18,711	9,645	9,066	106.4	66	37	29	127.6
5～9	22,004	11,332	10,672	106.2	86	34	52	65.4
10～14	23,665	12,026	11,639	103.3	68	43	25	172.0
15～19	24,629	12,696	11,933	106.4	268	107	161	66.5
20～24	20,892	10,985	9,907	110.9	981	448	533	84.1
25～29	20,436	10,343	10,093	102.5	911	408	503	81.1
30～34	23,021	11,607	11,414	101.7	672	257	415	61.9
35～39	28,086	14,098	13,988	100.8	427	135	292	46.2
40～44	32,162	16,350	15,812	103.4	415	131	284	46.1
45～49	36,491	18,483	18,008	102.6	308	100	208	48.1
50～54	35,756	17,915	17,841	100.4	296	70	226	31.0
55～59	31,841	15,527	16,314	95.2	187	45	142	31.7
60～64	34,181	16,453	17,728	92.8	139	41	98	41.8
65～69	37,607	18,176	19,431	93.5	108	36	72	50.0
70～74	43,098	20,432	22,666	90.1	115	50	65	76.9
75～79	33,837	15,340	18,497	82.9	97	41	56	73.2
80～84	25,488	10,250	15,238	67.3	67	24	43	55.8
85～89	20,134	6,849	13,285	51.6	22	9	13	69.2
90～94	12,120	3,255	8,865	36.7	17	1	16	6.3
95歳以上	5,130	930	4,200	22.1	8	2	6	33.3
不詳	8,029	4,473	3,556	125.8	4,959	2,446	2,513	97.3

注 1) 外国人は国籍不詳を含む。

注 2) 各歳別に年齢不詳は含まない。

表3 年齢3区分別人口

(単位:人、%)

年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口(0～14歳)	64,380	12.2	220	4.2
生産年齢人口(15～64歳)	287,495	54.3	4,604	87.6
老年人口(65歳以上)	177,414	33.5	434	8.3
うち75歳以上	96,709	18.3	211	4.0

II 人口動態

1 概況

1年間の人口動態は、自然増減は4,919人減少、社会増減は1,378人減少し、人口増減の減少幅は前年に比べ1,350人拡大した。

令和5年（令和4年10月～令和5年9月）の1年間の人口動態をみると、自然増減は4,919人の減少、社会増減は1,378人の減少、合計6,297人の減少となり、人口増減の減少幅は前年に比べ1,350人拡大した。（図5、統計表第3表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

2 自然動態

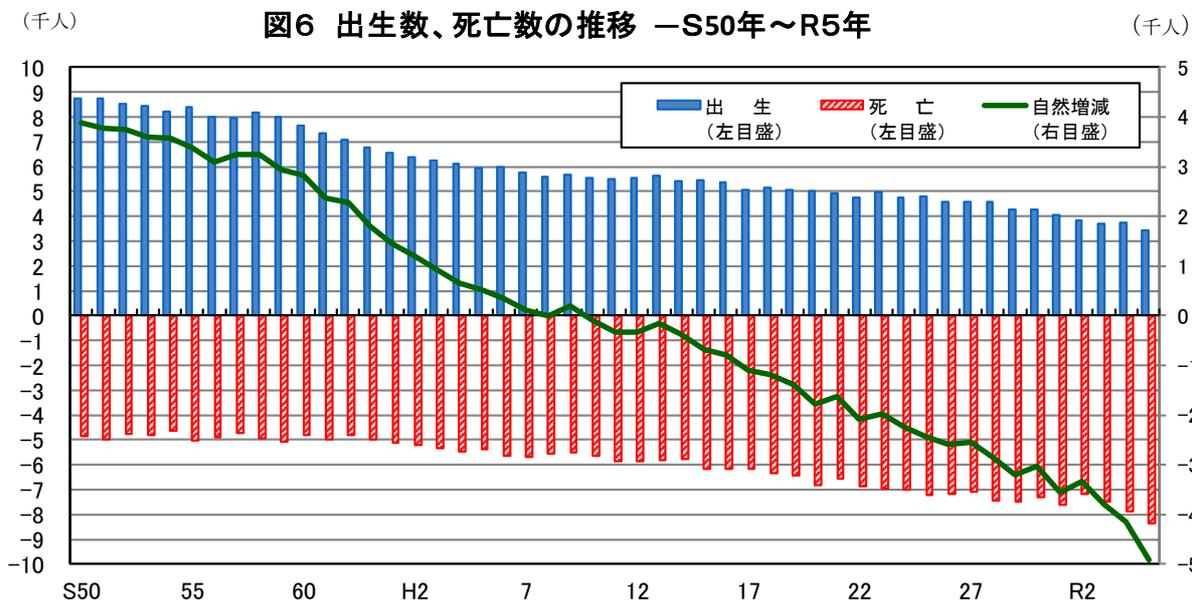
(1) 自然動態の推移

自然増減は、4,919人減少し、平成10年以降26年連続の減少となった。

出生数は昭和50年（8,735人）以降減少傾向となり、昭和63年からは6,000人台、平成5年からは5,000人台、平成21年からは4,000人台、令和2年からは3,000人台となり、令和5年は3,462人で前年に比べ274人減少した。

死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後で推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成15年からは6,000人台、平成25年からは7,000人台、令和5年は8,381人で8,000人台となり、前年に比べ490人増加した。

自然増減は4,919人の減少となり、減少幅は前年に比べ764人拡大し、平成10年以降26年連続の減少となった。（図6、統計表第3表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

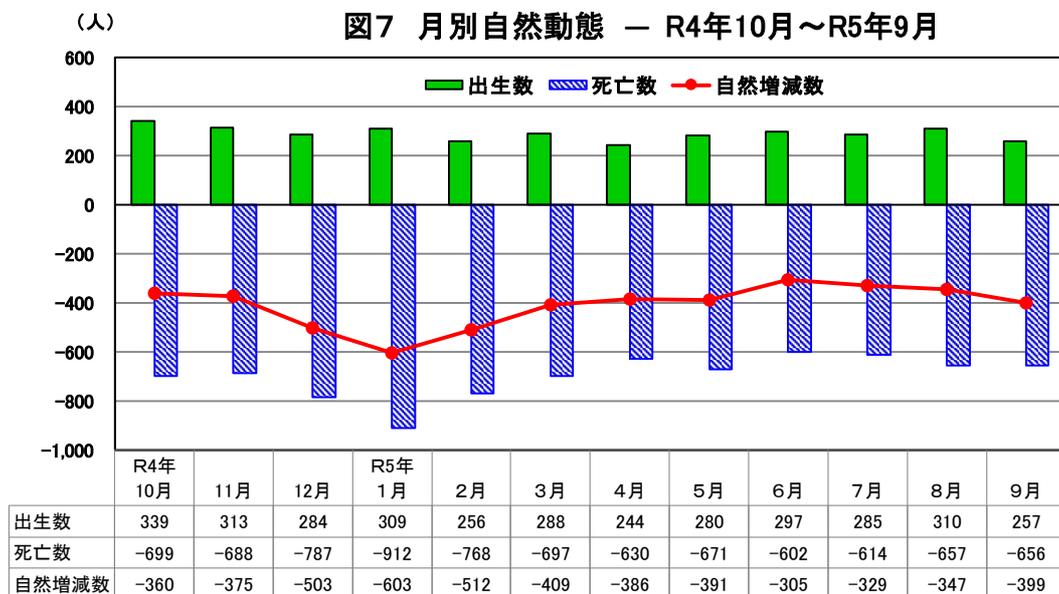
(2) 月別自然動態

自然増減はすべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い。

月別にみると、出生数は令和4年10月の339人（出生総数に占める割合9.8%）が最も多く、次いで令和4年11月の313人（同9.0%）、令和5年8月の310人（同9.0%）であった。

死亡数は令和5年1月の912人（死亡総数に占める割合10.9%）が最も多く、次いで令和4年12月の787人（同9.4%）、令和5年2月の768人（同9.2%）であった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は令和5年1月の603人が最も多かった。（図7、統計表第4表）



3 社会動態

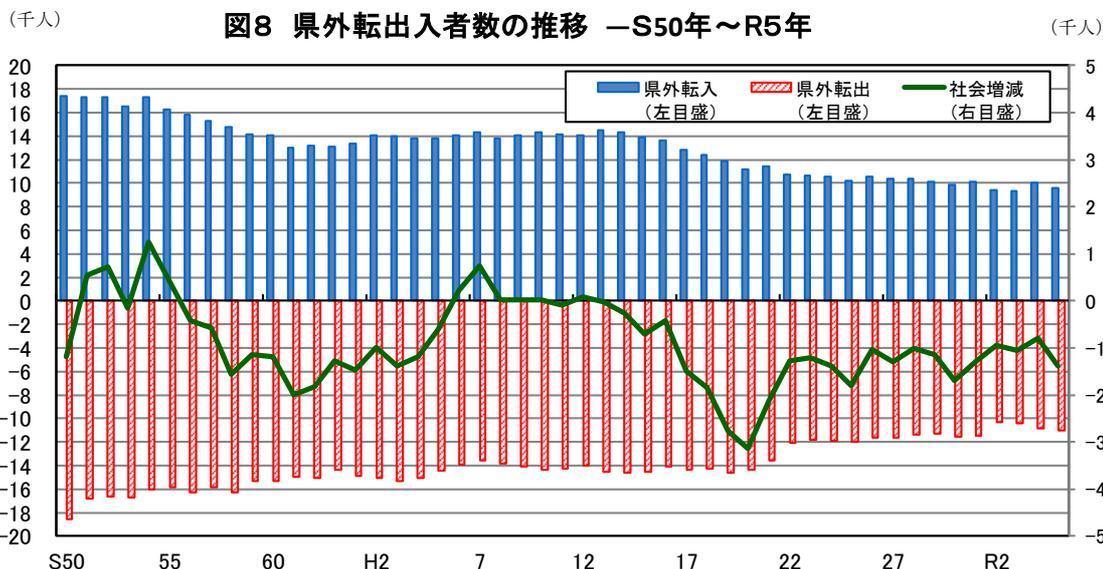
(1) 社会動態の推移

社会増減は、1,378人減少し、平成13年以降23年連続の減少となった。

令和5年（令和4年10月～令和5年9月）の県外転入者は9,612人、県外転出者は10,990人で社会増減は1,378人減少した。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は5,542人で実移動者総数は26,144人であった。

前年と比べると、県外転入者が448人減少、県外転出者が138人増加し、社会増減の減少数が586人拡大した。また、県内移動者が41人減少し、実移動者総数が351人減少した。

社会動態の推移をみると、昭和50年以降転入・転出ともに減少傾向となり、社会増減数は平成13年以降23年連続の減少となった。（図8、統計表第3表、統計表第7表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 月別社会動態

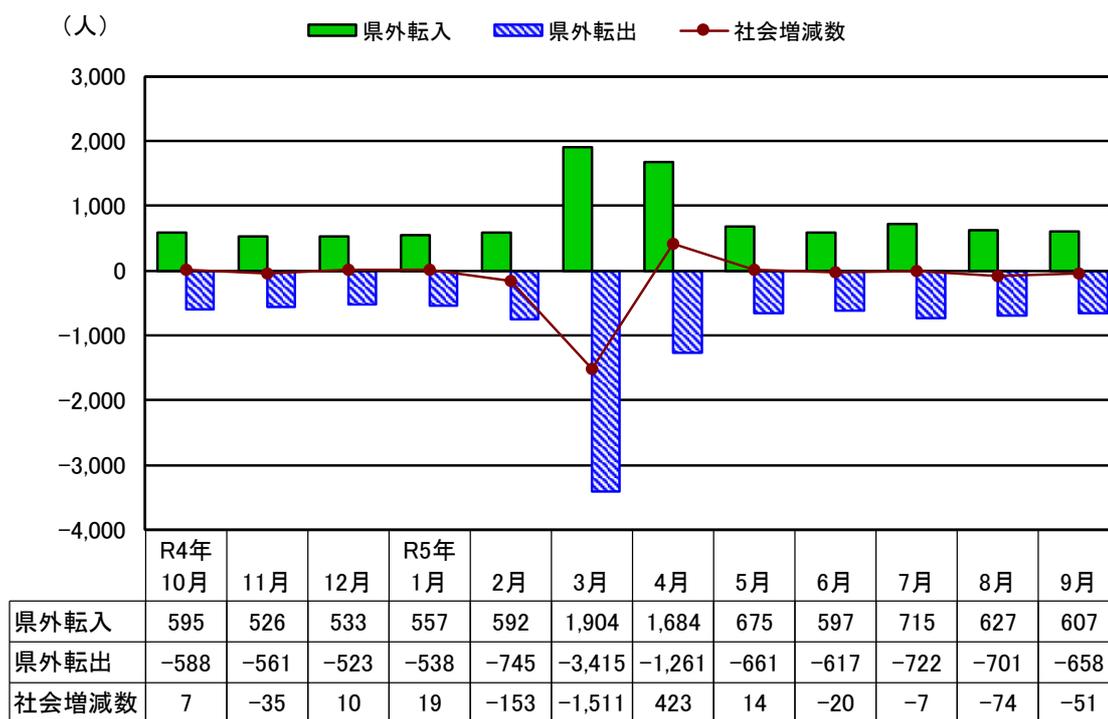
3月及び4月の2か月間で、年間県外移動者総数の40.1%を占める。

月別にみると、県外転入者は令和5年3月の1,904人（県外転入者総数に占める割合19.8%）が最も多く、次いで令和5年4月の1,684人（同17.5%）、令和5年7月の715人（同7.4%）であった。

県外転出者は令和5年3月の3,415人（県外転出者総数に占める割合31.1%）が最も多く、次いで令和5年4月の1,261人（同11.5%）、令和5年2月の745人（同6.8%）であった。

この結果、令和5年4月が423人増加し、令和5年3月が1,511人減少し、この2か月間で年間県外移動者総数の40.1%を占めている。（図9、統計表第6表）

図9 月別県外転出入者数 — R4年10月～R5年9月



(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態

県外転入者数は外国の1,243人、県外転出者数は大阪府の1,257人が最も多い。

都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は外国の1,243人（男性537人、女性706人）が最も多く、次いで島根県の1,211人（男性643人、女性568人）、大阪府の869人（男性450人、女性419人）であった。

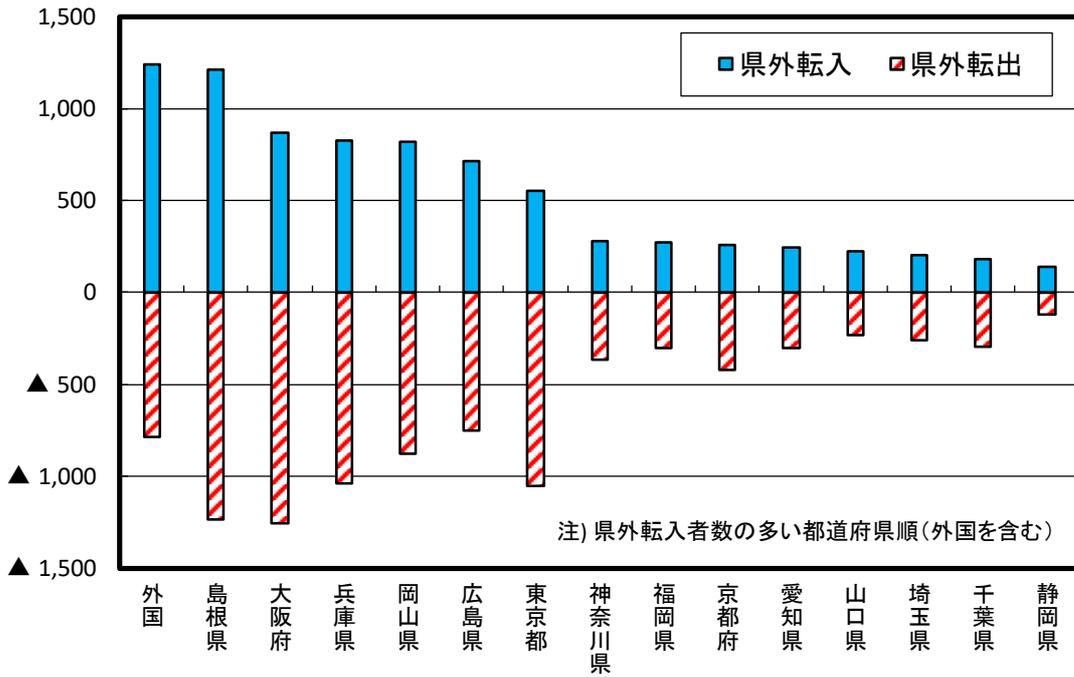
県外転出者は大阪府の1,257人（男性605人、女性652人）が最も多く、次いで島根県の1,233人（男性662人、女性571人）、東京都の1,053人（男性539人、女性514人）であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県の643人が最も多く、次いで外国の537人、岡山県の466人であり、県外転出者は島根県の662人が最も多く、次いで大阪府の605人、東京都の539人であった。

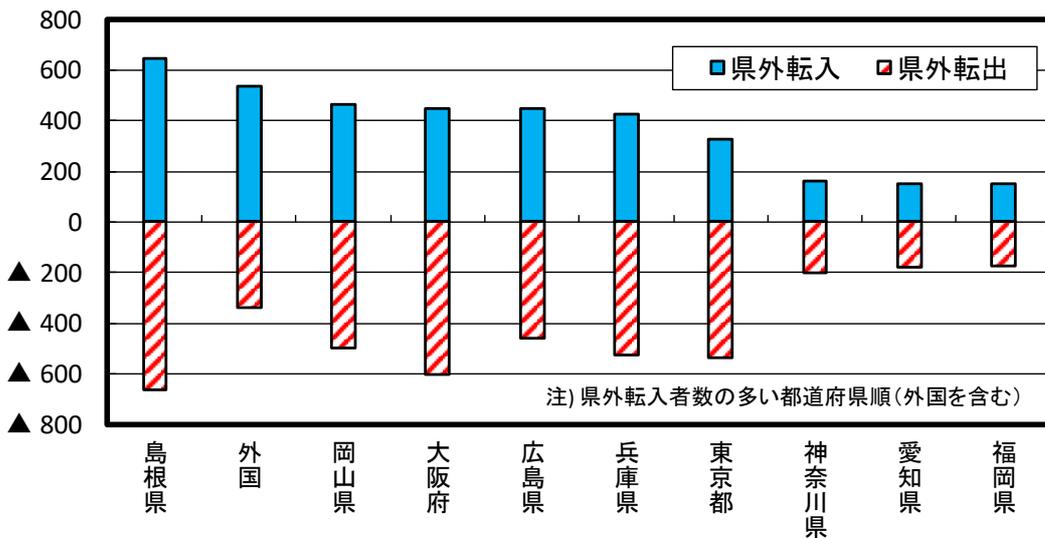
女性の県外転入者は外国の706人が最も多く、次いで島根県の568人、大阪府の419人であり、県外転出者は大阪府の652人が最も多く、次いで島根県の571人、東京都及び兵庫県の514人であった。

（図10-1、図10-2、図10-3、統計表第14表）

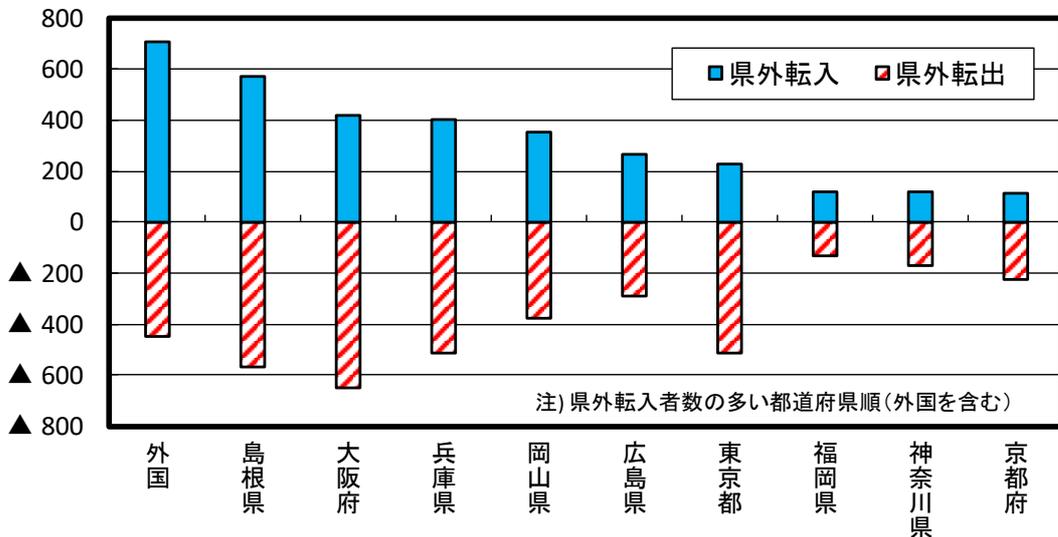
(人) 図10-1 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県(総数)



(人) 図10-2 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(男)



(人) 図10-3 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(女)



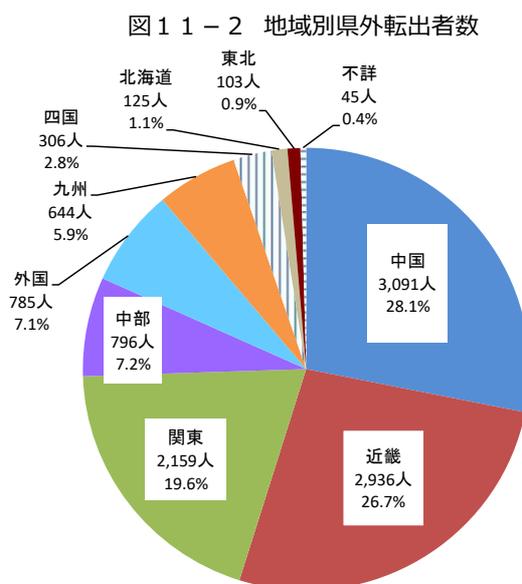
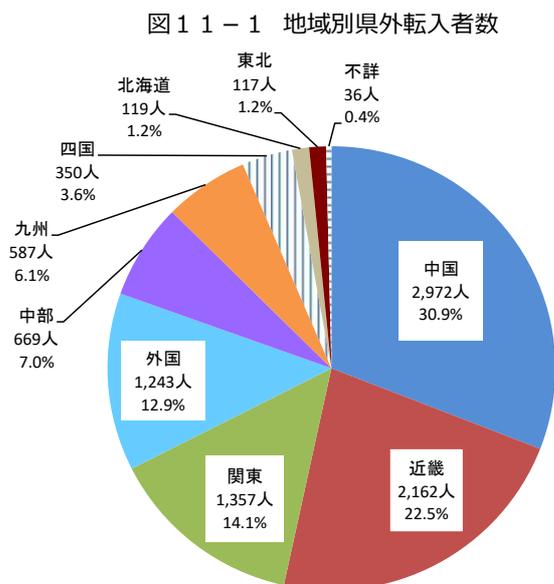
(4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックの2,972人（男性1,701人、女性1,271人）が最も多く、次いで近畿ブロックの2,162人（男性1,146人、女性1,016人）、関東の1,357人（男性788人、女性569人）であった。

県外転出者は中国ブロックの3,091人（男性1,763人、女性1,328人）が最も多く、次いで近畿ブロックの2,936人（男性1,441人、女性1,495人）、関東ブロックの2,159人（男性1,163人、女性996人）であった。

(図11-1、図11-2、統計表第14表)



注) 全国地域区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

- 北海道: 北海道
- 東北: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 関東: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
- 中部: 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
- 近畿: 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中国: 島根、岡山、広島、山口
- 四国: 徳島、香川、愛媛、高知
- 九州: 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数

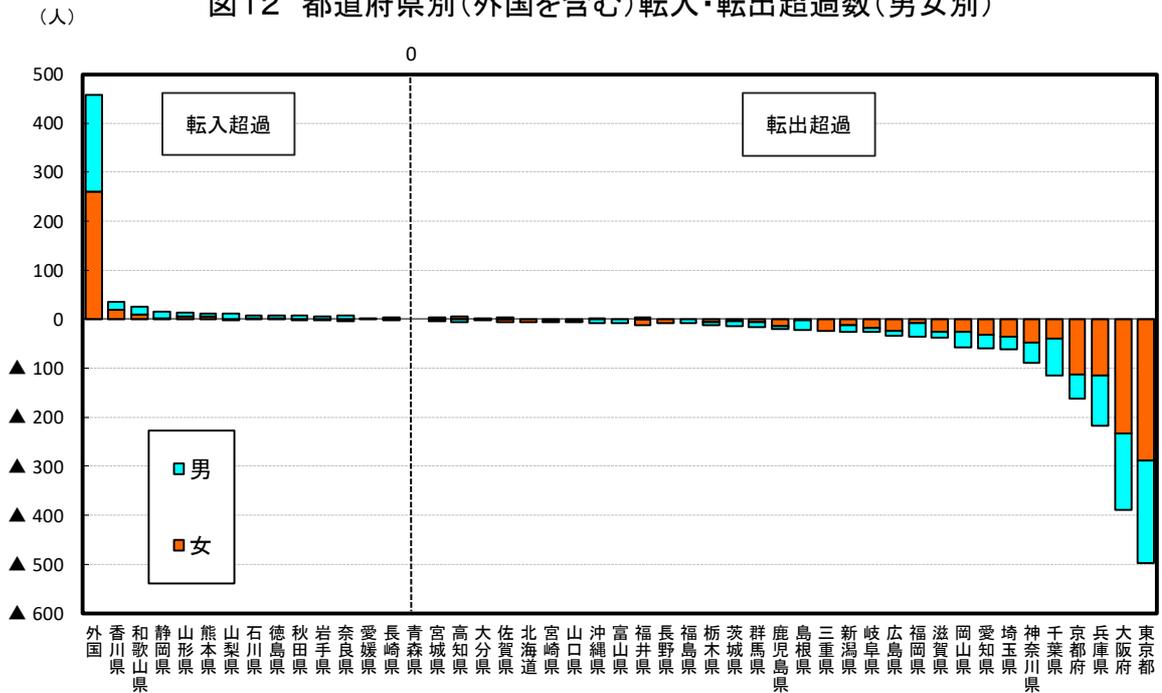
転入超過数は外国の458人、転出超過数は東京都の498人が最も多い。

転入超過数は、外国の458人（男性198人、女性260人）が最も多く、次いで香川県の35人（男性16人、女性19人）、和歌山県の26人（男性16人、女性10人）であった。

転出超過数は、東京都の498人（男性210人、女性288人）が最も多く、次いで大阪府の388人（男性155人、女性233人）、兵庫県の217人（男性103人、女性114人）であった。

(図12、統計表第14表)

図12 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数(男女別)



(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態

60～64歳が最も増加し、20～24歳が最も減少

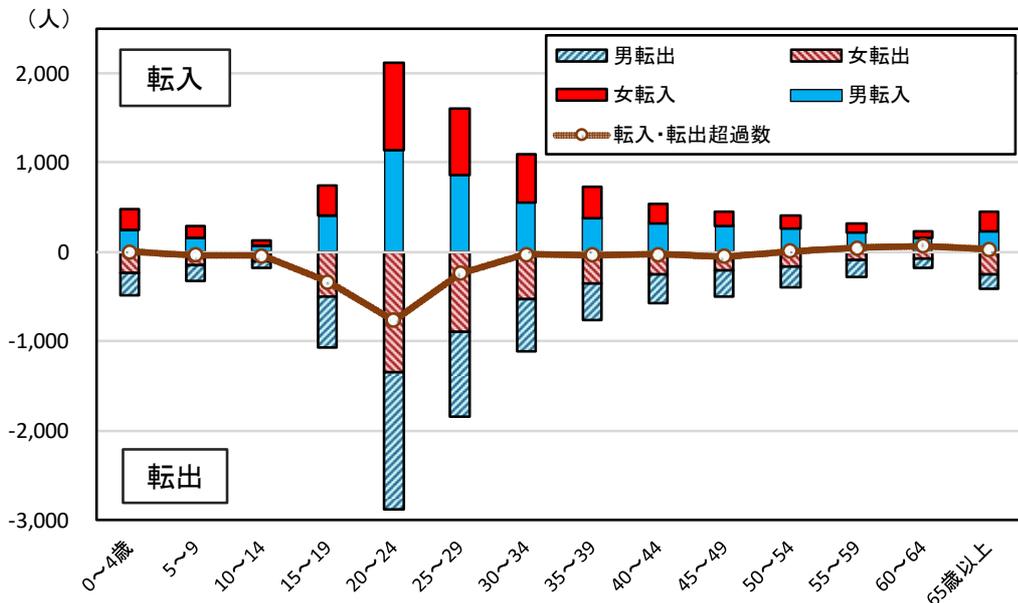
年齢5歳階級別にみると、県外転入者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,143人：男性の県外転入者総数に占める割合が21.5%、女性973人：女性の県外転入者総数に占める割合が22.6%）、次いで男女とも25～29歳（男性863人：同16.2%、女性744人：同17.3%）であった。

県外転出者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,540人：同26.2%、女性1,342人：同26.2%）、次いで男女とも25～29歳（男性949人：同16.2%、女性894人：同17.5%）であった。

県外転入転出により、60～64歳が最も増加（65人：男性56人、女性9人）、20～24歳が最も減少（766人：男性397人、女性369人）し、年間県外移動者総数をみると、20～34歳が全体の51.7%を占めている。

(図13、統計表第7表、第15表)

図13 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数



Ⅲ 市町村別推計人口

1 市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の184,132人、最も少ないのは江府町の2,425人

市郡別にみると、市部の推計人口は405,503人（男性194,437人、女性211,066人：県人口に占める割合75.5%）で、郡部の推計人口は131,815人（男性62,728人、女性69,087人：同24.5%）であった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の184,132人（男性89,424人、女性94,708人：同34.3%）で、次いで米子市の145,121人（男性68,829人、女性76,292人：同27.0%）であった。

郡部で推計人口が最も多いのは、湯梨浜町の15,705人（男性7,492人、女性8,213人：同2.9%）で、次いで琴浦町の15,513人（男性7,348人、女性8,165人：同2.9%）であった。

また、最も少ないのは、江府町の2,425人（男性1,121人、女性1,304人：同0.5%）で、次いで若桜町の2,558人（男性1,221人、女性1,337人：同0.5%）であった。

過去5年間（令和元年～令和5年）の市町村別の推計人口の推移をみると、日吉津村を除く18市町で減少している。

日吉津村は平成28年以降増加が続き、令和元年は減少したものの、令和2年から増加に転じた。

（表4、統計表第8表、第8-1表）

表4 市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	417,003	415,007	412,220	409,539	405,503	49,541	223,226	124,863	172,806	2.35
郡計	140,340	138,400	136,342	134,076	131,815	14,839	64,269	52,551	48,974	2.69
東部地区	225,945	224,492	222,529	220,709	218,036	25,742	118,976	69,736	90,929	2.40
中部地区	100,367	99,193	97,932	96,631	95,175	11,629	48,487	34,529	36,966	2.57
西部地区	231,031	229,722	228,101	226,275	224,107	27,009	120,032	73,149	93,885	2.39
鳥取市	189,364	188,465	187,238	186,045	184,132	22,235	102,521	55,803	78,204	2.35
米子市	147,715	147,317	146,753	146,148	145,121	18,380	80,557	42,469	63,233	2.30
倉吉市	46,991	46,485	45,828	45,227	44,480	5,260	22,888	15,891	18,109	2.46
境港市	32,933	32,740	32,401	32,119	31,770	3,666	17,260	10,700	13,260	2.40
岩美町	10,967	10,799	10,655	10,531	10,394	1,149	5,197	4,043	3,976	2.61
若桜町	2,941	2,864	2,767	2,661	2,558	156	1,055	1,346	1,133	2.26
智頭町	6,568	6,427	6,251	6,116	5,939	526	2,664	2,749	2,326	2.55
八頭町	16,105	15,937	15,618	15,356	15,013	1,676	7,539	5,795	5,290	2.84
三朝町	6,156	6,060	5,915	5,777	5,657	569	2,736	2,338	2,168	2.61
湯梨浜町	16,204	16,055	15,945	15,880	15,705	2,229	8,264	5,162	5,835	2.69
琴浦町	16,573	16,365	16,066	15,763	15,513	1,804	7,714	5,993	5,764	2.69
北栄町	14,443	14,228	14,178	13,984	13,820	1,767	6,885	5,145	5,090	2.72
日吉津村	3,497	3,501	3,532	3,543	3,588	532	2,005	1,022	1,304	2.75
大山町	15,642	15,370	15,110	14,774	14,498	1,535	6,891	6,072	5,131	2.83
南部町	10,479	10,323	10,208	10,066	9,989	1,084	5,011	3,890	3,543	2.82
伯耆町	10,763	10,696	10,590	10,354	10,221	1,202	4,745	4,251	3,664	2.79
日南町	4,288	4,196	4,090	3,974	3,828	252	1,474	2,100	1,678	2.28
日野町	3,002	2,907	2,822	2,790	2,667	170	1,095	1,402	1,150	2.32
江府町	2,712	2,672	2,595	2,507	2,425	188	994	1,243	922	2.63

2 年齢3区分別人口

(1) 年少人口

前年と比べると、年少人口は岩美町で15人、日吉津村で12人増加し、その他の市町で減少、年少人口割合は4町村で上昇

年少人口は鳥取市の22,235人が最も多く、次いで米子市の18,380人であった。前年と比べると、岩美町で15人、日吉津村で12人増加し、その他の市町で減少した。年少人口割合は日吉津村の14.9%が最も高く、次いで湯梨浜町の14.2%であった。前年と比べると、岩美町、日吉津村、伯耆町及び江府町で上昇し、北栄町及び日南町で同水準、鳥取市など13市町で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(2) 生産年齢人口

前年と比べると、生産年齢人口は日吉津村で40人増加し、その他の市町で減少、生産年齢人口割合は13市町で低下

生産年齢人口は鳥取市の102,521人が最も多く、次いで米子市の80,557人であった。前年と比べると、日吉津村で40人増加し、その他の市町で減少した。

生産年齢人口割合は米子市の57.0%が最も高く、次いで鳥取市の56.8%であった。前年と比べると、境港市、三朝町、湯梨浜町及び日吉津村で上昇し、米子市及び琴浦町で同水準、鳥取市など13市町で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(3) 老年人口

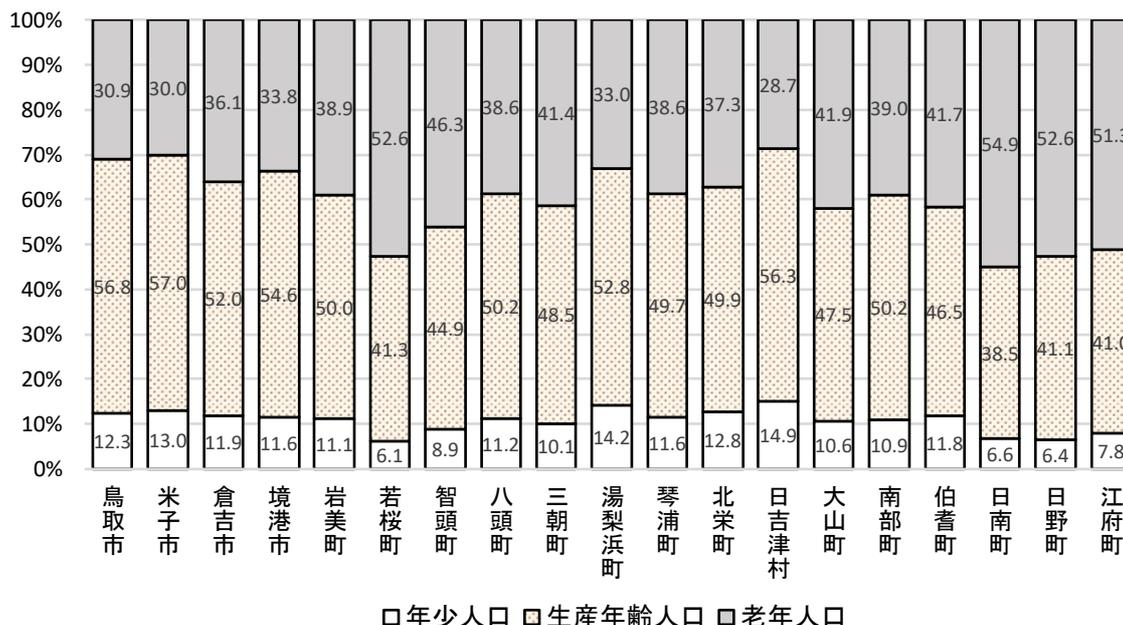
前年と比べると、老年人口は北栄町で5人増加し、その他の市町村で減少、老年人口割合は16市町で上昇

老年人口は鳥取市の55,803人が最も多く、次いで米子市の42,469人であった。前年と比べると、北栄町で5人増加し、その他の市町村で減少した。

老年人口割合は日南町の54.9%が最も高く、次いで若桜町及び日野町の52.6%であった。前年と比べると、鳥取市など16市町で上昇し、岩美町及び三朝町で同水準、日吉津村で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

図14 市町村別年齢3区分別人口割合



IV 市町村人口動態

1 人口増減

人口増減は日吉津村を除くすべての市町で減少

令和5年（令和4年10月～令和5年9月）の1年間の市町村別の人口増減をみると、増加したのは日吉津村の45人（自然減少19人、社会増加64人）で、その他の18市町は減少し、最も減少したのは鳥取市の1,913人（自然減少1,358人、社会減少555人）、次いで米子市の1,027人（自然減少823人、社会増加204人）、倉吉市の747人（自然減少479人、社会減少268人）、境港市の349人（自然減少340人、社会減少9人）であった。

また、増減率をみると、増加したのは日吉津村の1.27%で、その他の18市町は減少し、最も減少したのは日野町の4.41%、次いで若桜町の3.87%、日南町の3.67%、江府町の3.27%であった。（表5、統計表第8表）

表5 市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	3,462	8,381	-4,919	15,154	16,532	-1,378	-6,297
鳥取市	1,222	2,580	-1,358	4,433	4,988	-555	-1,913
米子市	1,106	1,929	-823	4,719	4,923	-204	-1,027
倉吉市	280	759	-479	1,278	1,546	-268	-747
境港市	164	504	-340	1,197	1,206	-9	-349
岩美町	61	199	-138	311	310	1	-137
若桜町	11	67	-56	41	88	-47	-103
智頭町	21	152	-131	157	203	-46	-177
八頭町	71	284	-213	265	395	-130	-343
三朝町	17	138	-121	138	137	1	-120
湯梨浜町	127	282	-155	453	473	-20	-175
琴浦町	83	319	-236	481	495	-14	-250
北栄町	82	207	-125	351	390	-39	-164
日吉津村	23	42	-19	197	133	64	45
大山町	62	322	-260	382	398	-16	-276
南部町	47	159	-112	308	273	35	-77
伯耆町	55	172	-117	266	282	-16	-133
日南町	13	112	-99	70	117	-47	-146
日野町	8	86	-78	58	103	-45	-123
江府町	9	68	-59	49	72	-23	-82

2 自然動態

(1) 市町村別自然動態

自然増減はすべての市町村で減少

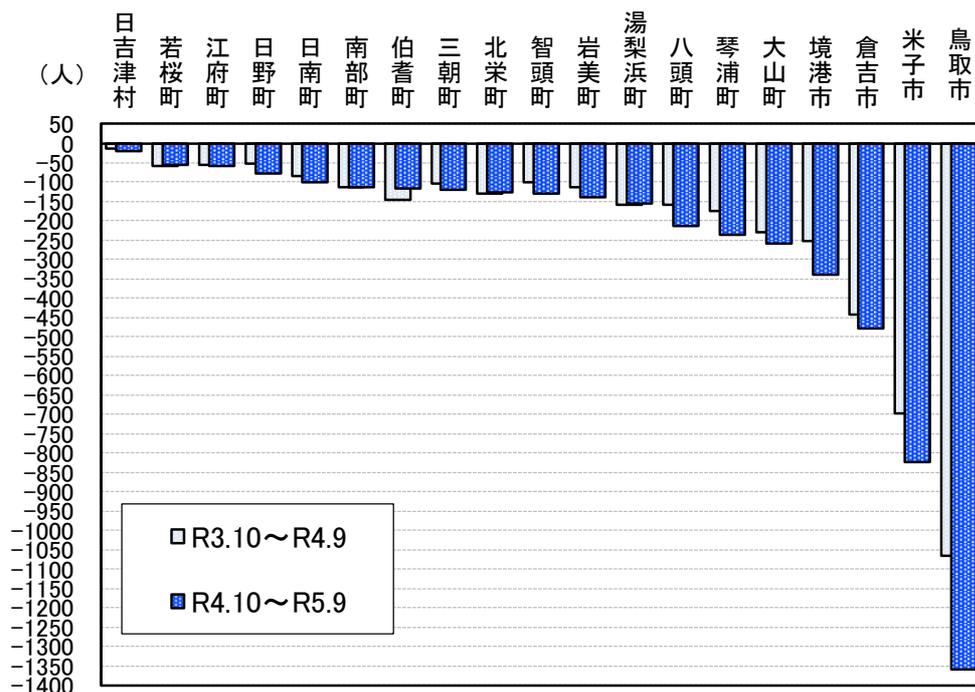
自然増減を市町村別にみると、すべての市町村で減少した。

最も減少したのは鳥取市の1,358人（出生数1,222人、死亡数2,580人）、次いで米子市の823人（出生数1,106人、死亡数1,929人）であった。

自然増減率（対1,000人比）をみると、すべての市町村で減少し、最も減少したのは日野町の27.96%、次いで日南町の24.91%であった。

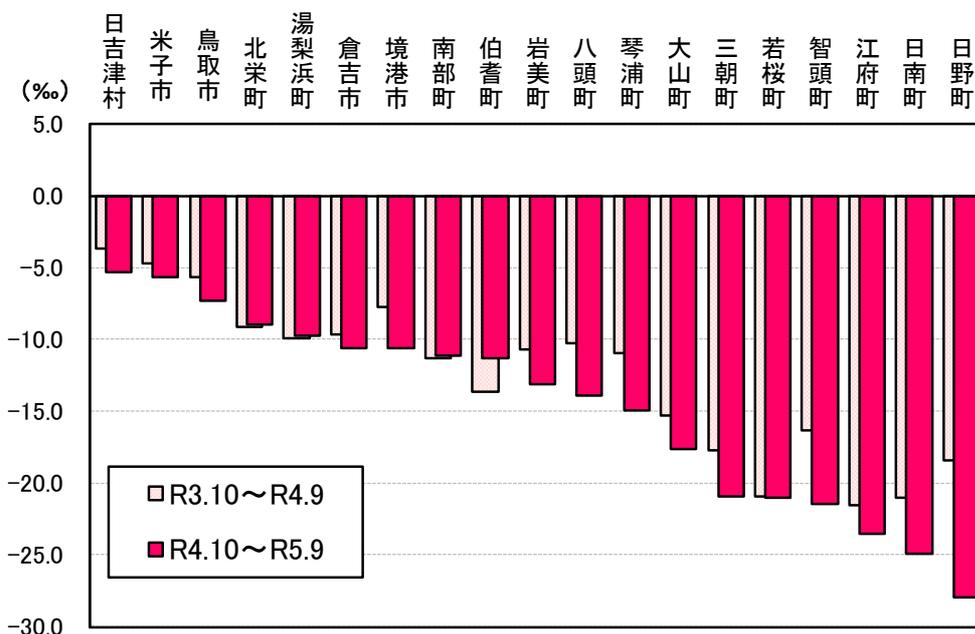
（図15-1、図15-2、統計表第11表）

図15-1 市町村別自然増減数



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

図15-2 市町村別自然増減率



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 月別自然動態

出生数は令和5年1月の鳥取市の124人、死亡数は令和5年1月の鳥取市の308人が最も多い。

月別にみると、出生数は令和5年1月の鳥取市の124人（総出生数に占める割合3.6%）が最も多く、次いで令和5年6月の鳥取市及び令和4年10月の米子市の113人（同3.3%）、令和4年10月の鳥取市の112人（同3.2%）であった。

死亡数は令和5年1月の鳥取市の308人（総死亡数に占める割合3.7%）が最も多く、次いで令和5年2月の鳥取市の239人（同2.9%）、令和4年12月の鳥取市の230人（同2.7%）であった。

（表6）

(3) 男女別自然動態

男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最も多かった。

市町村別の男女別をみると、男性の出生数は鳥取市の620人が最も多く、次いで米子市の587人、倉吉市の121人、境港市の85人であった。死亡数は鳥取市の1,255人が最も多く、次いで米子市の958人、倉吉市の354人、境港市の250人であった。

女性の出生数は鳥取市の602人が最も多く、次いで米子市の519人、倉吉市の159人、境港市の79人であった。死亡数は鳥取市の1,325人が最も多く、次いで米子市の971人、倉吉市の405人、境港市の254人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では日野町の4人、女性では日野町及び江府町の4人、死亡数は、男性では日吉津村の20人、女性では日吉津村の22人であった。

（表6、統計表第11表）

表6 月別男女別自然動態 -R4年10月～R5年9月-

(単位:人)

		計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
県計	出生数	男	1,745	157	155	144	144	138	148	131	145	144	156	150	133
		女	1,717	182	158	140	165	118	140	113	135	153	129	160	124
		総数	3,462	339	313	284	309	256	288	244	280	297	285	310	257
	死亡数	男	4,051	344	332	352	454	369	344	290	332	302	285	334	313
		女	4,330	355	356	435	458	399	353	340	339	300	329	323	343
		総数	8,381	699	688	787	912	768	697	630	671	602	614	657	656
鳥取市	出生数	男	620	60	50	45	67	43	57	45	41	60	59	44	49
		女	602	52	56	50	57	48	51	33	50	53	50	50	52
		総数	1,222	112	106	95	124	91	108	78	91	113	109	94	101
	死亡数	男	1,255	110	95	104	157	113	104	93	106	104	82	101	86
		女	1,325	100	109	126	151	126	117	116	91	90	94	95	110
		総数	2,580	210	204	230	308	239	221	209	197	194	176	196	196
米子市	出生数	男	587	58	50	46	46	58	39	45	53	51	46	47	48
		女	519	55	53	47	52	32	39	36	41	40	41	55	28
		総数	1,106	113	103	93	98	90	78	81	94	91	87	102	76
	死亡数	男	958	78	84	74	121	83	75	75	81	68	60	82	77
		女	971	75	82	96	105	85	69	80	83	63	77	79	77
		総数	1,929	153	166	170	226	168	144	155	164	131	137	161	154
倉吉市	出生数	男	121	8	9	16	6	10	12	6	14	6	13	15	6
		女	159	11	13	15	15	11	16	15	11	17	8	15	12
		総数	280	19	22	31	21	21	28	21	25	23	21	30	18
	死亡数	男	354	29	34	28	35	41	26	26	25	25	36	22	27
		女	405	34	40	42	29	31	23	34	40	33	33	30	36
		総数	759	63	74	70	64	72	49	60	65	58	69	52	63
境港市	出生数	男	85	5	11	7	3	9	10	2	7	7	5	9	10
		女	79	12	8	3	8	7	5	4	4	7	7	7	7
		総数	164	17	19	10	11	16	15	6	11	14	12	16	17
	死亡数	男	250	18	20	28	17	24	30	13	22	15	22	22	19
		女	254	20	24	17	24	22	17	15	29	23	19	23	21
		総数	504	38	44	45	41	46	47	28	51	38	41	45	40

3 社会動態

(1) 市町村別社会動態

社会増減は岩美町で1人、三朝町で1人、日吉津村で64人、南部町で35人増加し、その他の市町で減少

社会増減を市町村別にみると、岩美町で1人、三朝町で1人、日吉津村で64人、南部町で35人増加し、その他の市町で減少した。

増加したのは日吉津村の64人（男性34人、女性30人）が最も増加し、次いで南部町の35人（男性18人、女性17人）であった。減少したのは鳥取市の555人（男性161人、女性394人）が最も減少し、次いで倉吉市の268人（男性129人、女性139人）であった。

社会増減率（対1,000人比）をみると、最も増加したのは日吉津村の18.06‰で、次いで南部町の3.48‰、三朝町の0.17‰、岩美町の0.09‰、その他の市町は減少し、最も減少したのは若桜町の17.66‰、次いで日野町の16.13‰であった。

（図16-1、図16-2、表7、統計表第12表、第15表）

図16-1 市町村別社会増減数

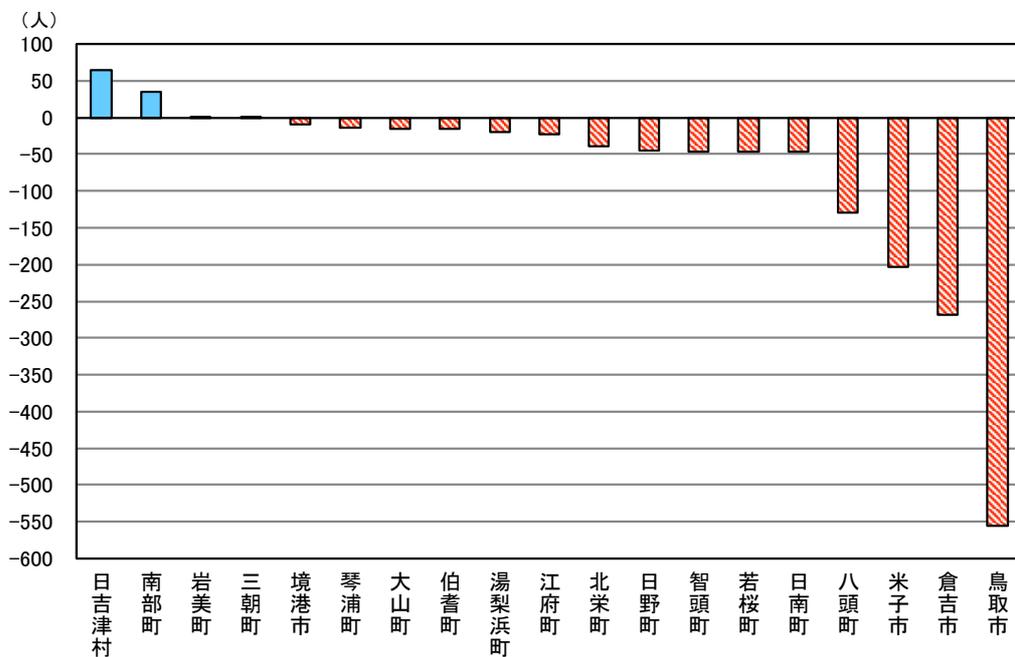


図16-2 市町村別社会増減率

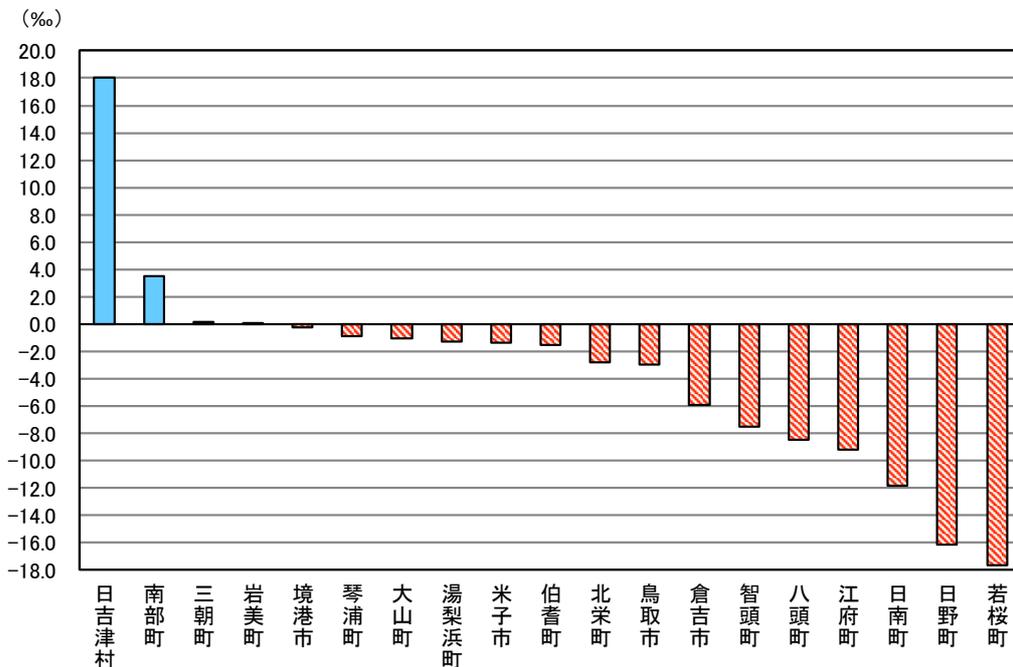


表7 市町村別社会動態

(単位：人)

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	9,612	10,990	-1,378	5,542	5,542	0	-1,378
東部地区	3,621	4,296	-675	1,586	1,688	-102	-777
中部地区	1,328	1,568	-240	1,373	1,473	-100	-340
西部地区	4,663	5,126	-463	2,583	2,381	202	-261
鳥取市	3,245	3,860	-615	1,188	1,128	60	-555
米子市	3,201	3,656	-455	1,518	1,267	251	-204
倉吉市	662	841	-179	616	705	-89	-268
境港市	858	833	25	339	373	-34	-9
岩美町	146	158	-12	165	152	13	1
若桜町	22	23	-1	19	65	-46	-47
智頭町	102	104	-2	55	99	-44	-46
八頭町	106	151	-45	159	244	-85	-130
三朝町	81	81	0	57	56	1	1
湯梨浜町	142	215	-73	311	258	53	-20
琴浦町	305	254	51	176	241	-65	-14
北栄町	138	177	-39	213	213	0	-39
日吉津村	63	61	2	134	72	62	64
大山町	193	196	-3	189	202	-13	-16
南部町	144	123	21	164	150	14	35
伯耆町	115	121	-6	151	161	-10	-16
日南町	34	54	-20	36	63	-27	-47
日野町	33	43	-10	25	60	-35	-45
江府町	22	39	-17	27	33	-6	-23

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(－)の場合は、転出超過を示す。

注2) 地区別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地区内市町村間の移動者を含む。

(2) 県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市への433人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への433人(男性243人、女性190人)が最も多く、次いで米子市から鳥取市への332人(男性184人、女性148人)であった。

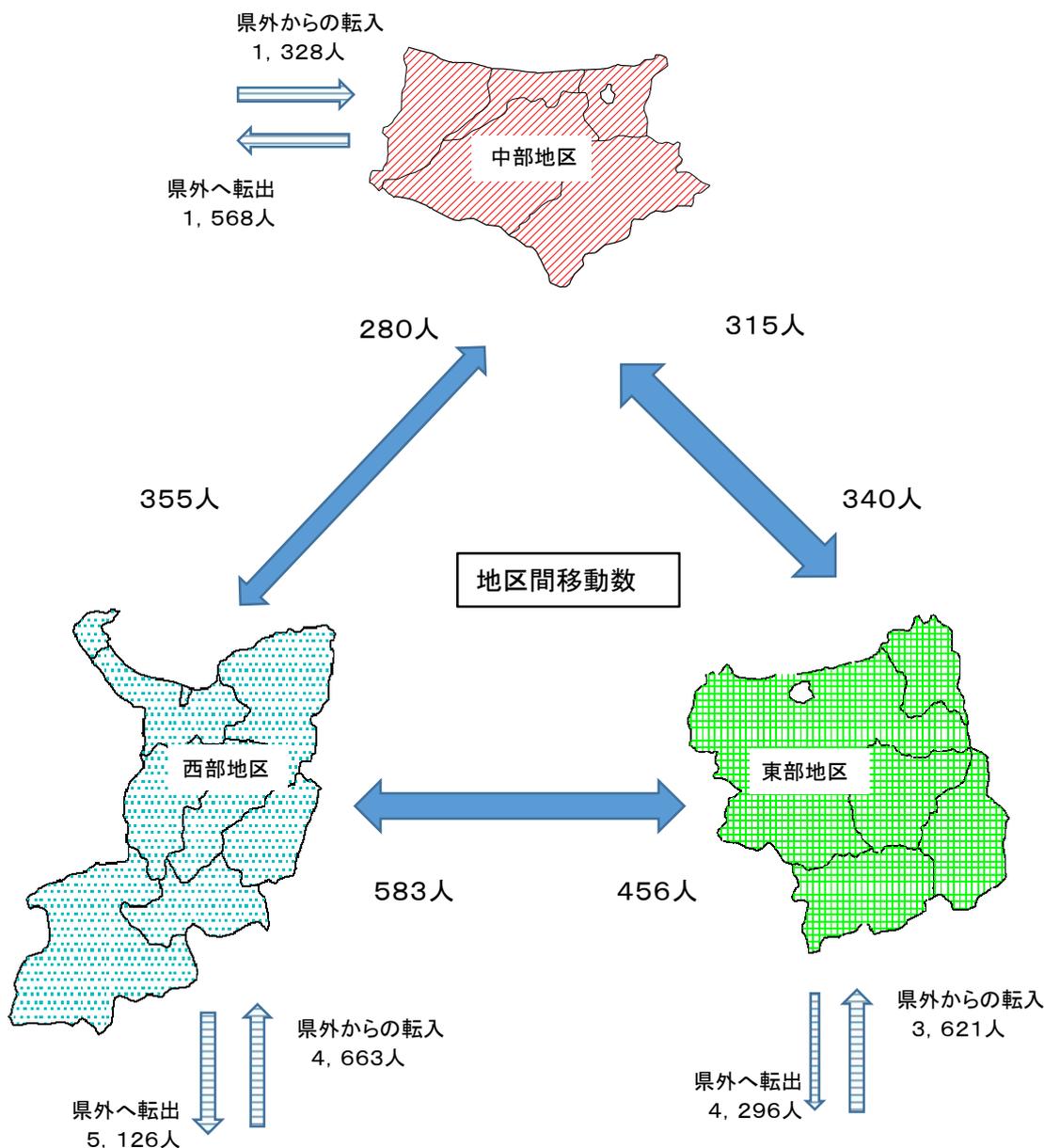
県内移動での転入超過は、米子市の251人(男性141人、女性110人)が最も多く、次いで日吉津村の62人(男性30人、女性32人)であった。

転出超過は、倉吉市の89人(男性39人、女性50人)が最も多く、次いで八頭町の85人(男性31人、女性54人)であった。

また、県内移動を地域区別にみると、東部から西部への583人(男性328人、女性255人)が最も多く、次いで西部から東部への456人(男性258人、女性198人)、中部から西部への355人(男性169人、女性186人)であった。

(図17、統計表第13表)

図17 地域別社会動態(R4年10月～R5年9月)



県外との社会動態(県全体)

県外へ転出 10,990人
 県外からの転入 9,612人

注) 地区間移動数は、地区内市町村間の移動者を含まない。

(3) 県外転入・県外転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への656人、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への607人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への656人(男性337人、女性319人)で、次いで外国から鳥取市への543人(男性253人、女性290人)であった。

また、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への607人(男性321人、女性286人)、次いで鳥取市から大阪府への509人(男性251人、女性258人)であった。

県外転入・県外転出での転入超過は、琴浦町の51人(男性12人、女性39人)が最も多く、次いで境港市の25人(男性20人、女性45人)であった。

転出超過は、鳥取市の 615 人（男性 174 人、女性 441 人）が最も多く、次いで米子市の 455 人（男性 188 人、女性 267 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では外国から 620 人（男性 278 人、女性 342 人）が最も多く、次いで兵庫県から 439 人（男性 215 人、女性 224 人）、中部では外国から 257 人（男性 76 人、女性 181 人）が最も多く、次いで岡山県から 150 人（男性 88 人、女性 62 人）、西部では島根県から 904 人（男性 454 人、女性 450 人）が最も多く、次いで岡山県から 396 人（男性 206 人、女性 190 人）であった。

県外転出者については東部では兵庫県へ 578 人（男性 280 人、女性 298 人）が最も多く、次いで大阪府へ 568 人（男性 272 人、女性 296 人）、中部では大阪府へ 209 人（男性 103 人、女性 106 人）が最も多く、次いで外国へ 191 人（男性 80 人、女性 111 人）、西部では島根県へ 839 人（男性 440 人、女性 399 人）が最も多く、次いで大阪府へ 480 人（男性 230 人、女性 250 人）であった。（表8、統計表第14表）

表8 都道府県別県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
	総数	鳥取市	米子市	琴浦町	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
外国	1,243	543	197	137	366	785	298	118	91	278
島根県	1,211	656	198	151	206	1,233	607	282	131	213
大阪府	869	315	241	62	251	1,257	509	333	107	308
兵庫県	825	385	228	49	163	1,042	501	236	65	240
岡山県	818	313	245	113	147	875	320	280	97	178
広島県	717	292	259	43	80	750	323	240	59	128
東京都	555	197	193	37	128	1,053	414	333	73	233

(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者、県外転出者とも20～24歳が最も多い。

【鳥取市】

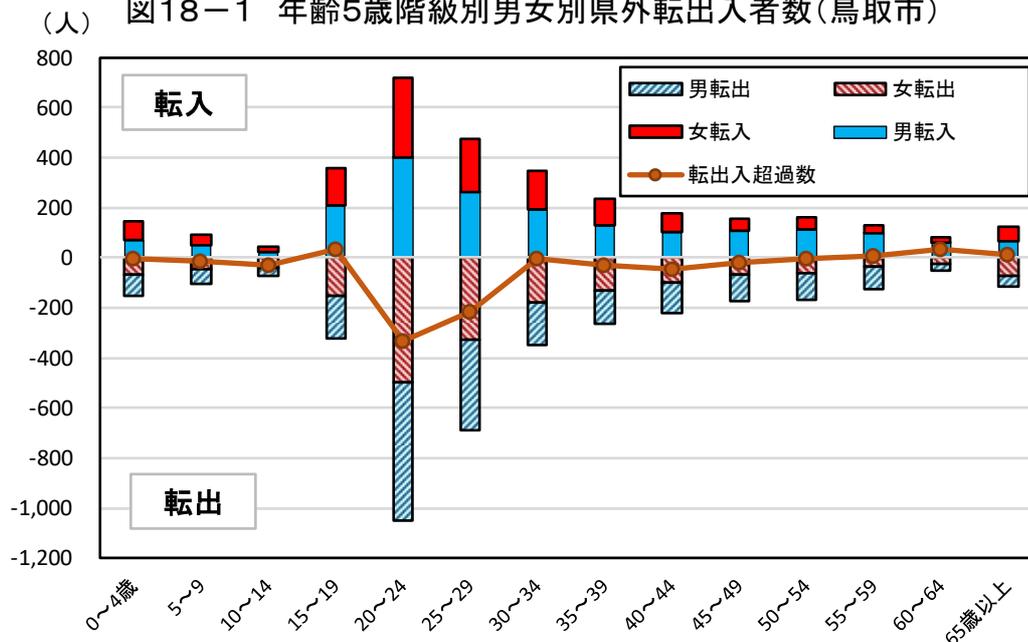
県外転入者は、20～24歳の717人（男性403人、女性314人：県全体の県外転入者総数に占める割合7.5%）が最も多く、次いで25～29歳の476人（男性265人、女性211人：同5.0%）であった。

県外転出者は、20～24歳の1,052人（男性556人、女性496人：県全体の県外転出者総数に占める割合9.6%）が最も多く、次いで25～29歳の691人（男性362人、女性329人：同6.3%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、60～64歳の34人（男性33人、女性1人）が最も多く、次いで15～19歳の33人（男性39人、女性-6人）であった。

転出超過数は、20～24歳の335人（男性153人、女性182人）が最も多く、次いで25～29歳の215人（男性97人、女性118人）であった。（図18-1、統計表第15表）

図18-1 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(鳥取市)



【米子市】

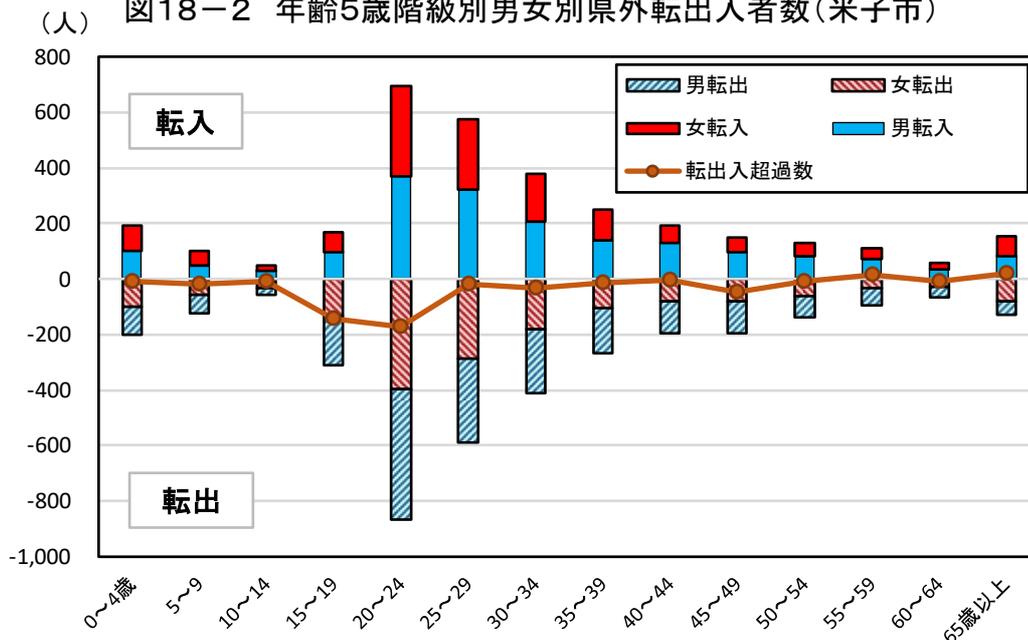
県外転入者は、20~24歳の697人(男性370人、女性327人：同7.3%)が最も多く、次いで25~29歳の573人(男性322人、女性251人：同6.0%)であった。

県外転出者は、20~24歳の868人(男性469人、女性399人：同7.9%)が最も多く、次いで25~29歳の590人(男性303人、女性287人：同5.4%)であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、65歳以上の21人(男性35人、女性-14人)が最も多く、次いで55~59歳の13人(男性8人、女性5人)であった。

転出超過数は、20~24歳の171人(男性99人、女性72人)が最も多く、次いで15~19歳の143人(男性79人、女性64人)であった。(図18-2、統計表第15表)

図18-2 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(米子市)



【倉吉市】

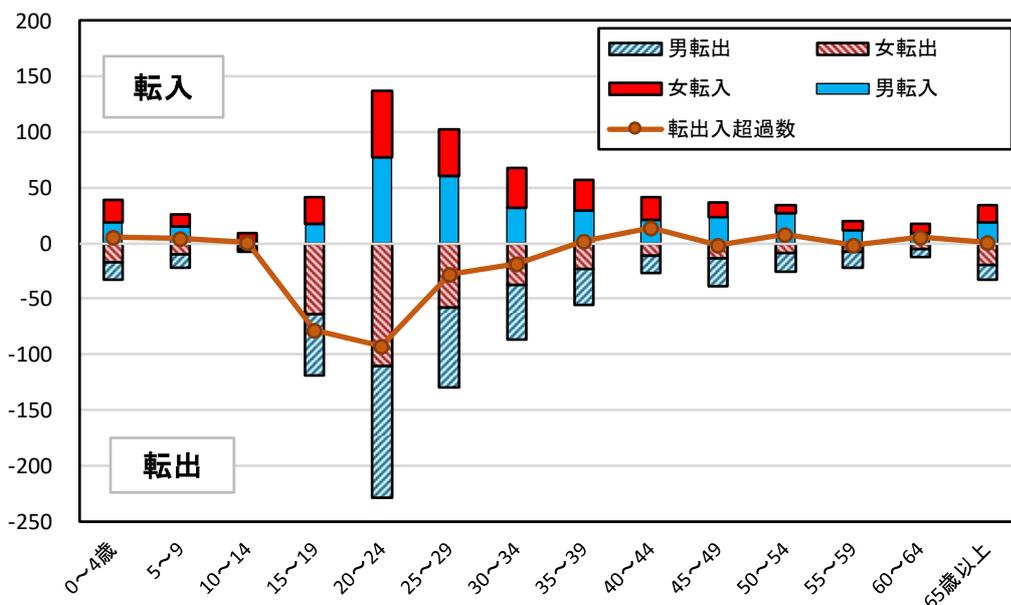
県外転入者は、20～24歳の137人（男性77人、女性60人：同1.4%）が最も多く、次いで25～29歳の102人（男性60人、女性42人：同1.1%）であった。

県外転出者は、20～24歳の229人（男性119人、女性110人：同2.1%）が最も多く、次いで25～29歳の130人（男性72人、女性58人：同1.2%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、40～44歳の14人（男性5人、女性9人）が最も多く、次いで50～54歳の8人（男性10人、女性-2人）であった。

転出超過数は、20～24歳の92人（男性42人、女性50人）が最も多く、次いで15～19歳の78人（男性38人、女性40人）であった。（図18-3、統計表第15表）

（人） 図18-3 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数（倉吉市）



【境港市】

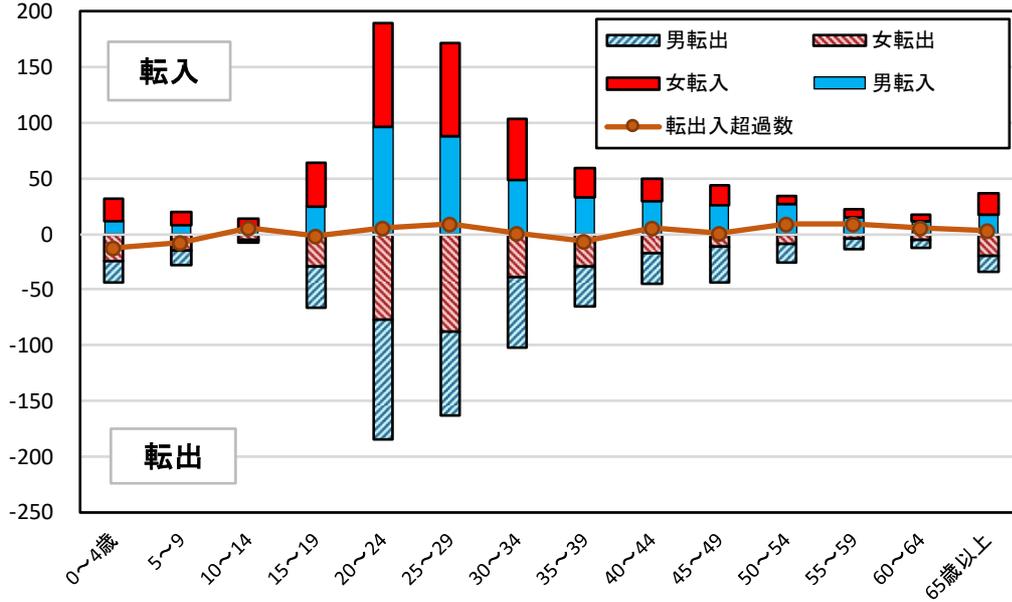
県外転入者は、20～24歳の190人（男性96人、女性94人：同2.0%）が最も多く、次いで25～29歳の172人（男性88人、女性84人：同1.8%）であった。

県外転出者は、20～24歳の185人（男性108人、女性77人：同1.7%）が最も多く、次いで25～29歳の163人（男性75人、女性88人：同1.5%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、25～29歳の9人（男性13人、女性-4人）、50～54歳の9人（男性11人、女性-2人）及び55～59歳の9人（男性6人、女性3人）が最も多く、次いで10～14歳の6人（男性1人、女性5人）であった。

転出超過数は、0～4歳の12人（男性8人、女性4人）が最も多く、次いで5～9歳の8人（男性5人、女性3人）であった。（図18-4、統計表第15表）

(人) 图18-4 年龄5岁阶段别男女别县外转出入者数(境港市)



<参考> 外国人（国籍不詳を含む）の推計人口

1 推計人口と世帯数

- ・令和5年10月1日現在の推計人口（国籍不詳5,118人を含む。以下同じ。）は、10,217人で、前年に比べ501人増加
- ・男女別人口は、男性4,465人、女性5,752人で、人口性比は77.6（表9、P.3表1、統計表第1表）

2 年齢別3区分別人口（年齢不詳を含まない）

- ・年少人口は220人、生産年齢人口は4,604人、老年人口は434人
- ・年少人口割合は4.2%、生産年齢人口割合は87.6%、老年人口割合は8.3%
- ・年齢5歳階級別人口は、男女とも20～24歳の981人（男性448人、女性533人）が最も多く、次いで男女とも25～29歳の911人（男性408人、女性503人）が多い（表9、P.6表2、表3）

3 市町村別推計人口

- ・市町村別の推計人口は、米子市の4,240人（男性1,803人、女性2,437人）が最も多く、次いで鳥取市の3,538人（男性1,786人、女性1,752人）（表9）

表9 市町村別推計人口、年齢3区分別人口(外国人)

(単位:人、%)

区分	推計人口			年齢3区分別人口			年齢3区分別人口割合(%)		
	総数	男	女	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
県計	10,217	4,465	5,752	220	4,604	434	4.2	87.6	8.3
鳥取市	3,538	1,786	1,752	90	1,448	118	5.4	87.4	7.1
米子市	4,240	1,803	2,437	81	1,283	184	5.2	82.9	11.9
倉吉市	508	218	290	10	239	32	3.6	85.1	11.4
境港市	686	200	486	12	539	33	2.1	92.3	5.7
岩美町	106	48	58	2	98	1	2.0	97.0	1.0
若桜町	28	6	22	0	28	0	0.0	100.0	0.0
智頭町	68	26	42	0	67	1	0.0	98.5	1.5
八頭町	66	8	58	2	61	3	3.0	92.4	4.5
三朝町	80	47	33	5	69	2	6.6	90.8	2.6
湯梨浜町	94	27	67	2	79	4	2.4	92.9	4.7
琴浦町	293	101	192	8	268	17	2.7	91.5	5.8
北栄町	111	28	83	5	99	4	4.6	91.7	3.7
日吉津村	53	17	36	0	21	13	0.0	61.8	38.2
大山町	138	52	86	0	125	13	0.0	90.6	9.4
南部町	105	59	46	0	101	1	0.0	99.0	1.0
伯耆町	54	22	32	1	35	5	2.4	85.4	12.2
日南町	20	11	9	0	18	2	0.0	90.0	10.0
日野町	20	5	15	2	17	1	10.0	85.0	5.0
江府町	9	1	8	0	9	0	0.0	100.0	0.0

注) 推計人口に年齢不詳は含まれるが、年齢3区分に年齢不詳は含まれない。

4 自然動態

- ・出生数は15人（男性10人、女性5人）
- ・死亡数は15人（男性6人、女性9人）（表10）

表10 自然動態(外国人)

(単位:人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	15	10	5	15	6	9
10月	0	0	0	1	0	1
11月	1	0	1	1	1	0
12月	1	0	1	1	1	0
1月	1	1	0	1	1	0
2月	1	1	0	2	0	2
3月	2	2	0	3	1	2
4月	4	3	1	4	1	3
5月	2	2	0	0	0	0
6月	2	1	1	0	0	0
7月	1	0	1	0	0	0
8月	0	0	0	2	1	1
9月	0	0	0	0	0	0

5 社会動態

(1) 県内移動

- ・県内移動者数は117人（男性46人、女性71人）
- ・転入が最も多いのは米子市の36人（男性17人、女性19人）
- ・転入超過数は、米子市の25人（男性9人、女性16人）が最も多く、転出超過数は、鳥取市の19人（男性18人、女性1人）及び琴浦町の19人（男性-1人、女性20人）が最も多い。

(2) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は1,775人（男性789人、女性986人）で、県外転出者数は1,274人（男性583人、女性691人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の642人（男性324人、女性318人）で、次いで米子市の374人（男性178人、女性196人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の480人（男性217人、女性263人）で、次いで米子市の272人（男性135人、女性137人）
- ・転入超過数は、鳥取市の162人（男性107人、女性55人）が最も多く、転出超過数は、倉吉市の17人（男性13人、女性4人）が最も多い。（表11）

表11 市町村別社会動態(外国人)

(単位:人)

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	1,775	789	986	1,274	583	691	501	117	46	71	117	46	71	0	501
東部地区	735	343	392	554	241	313	181	32	6	26	49	24	25	-17	164
中部地区	331	125	206	260	114	146	71	38	16	22	32	6	26	6	77
西部地区	709	321	388	460	228	232	249	47	24	23	36	16	20	11	260
鳥取市	642	324	318	480	217	263	162	21	5	16	40	23	17	-19	143
米子市	374	178	196	272	135	137	102	36	17	19	11	8	3	25	127
倉吉市	63	30	33	80	43	37	-17	22	13	9	5	3	2	17	0
境港市	197	58	139	96	34	62	101	7	4	3	10	2	8	-3	98
岩美町	52	11	41	38	10	28	14	4	0	4	1	0	1	3	17
若桜町	4	1	3	4	0	4	0	3	0	3	3	0	3	0	0
智頭町	30	6	24	24	10	14	6	3	1	2	0	0	0	3	9
八頭町	7	1	6	8	4	4	-1	1	0	1	5	1	4	-4	-5
三朝町	37	24	13	23	12	11	14	1	0	1	0	0	0	1	15
湯梨浜町	30	10	20	34	9	25	-4	7	0	7	3	1	2	4	0
琴浦町	178	53	125	106	42	64	72	2	2	0	21	1	20	-19	53
北栄町	23	8	15	17	8	9	6	6	1	5	3	1	2	3	9
日吉津村	4	3	1	5	3	2	-1	1	1	0	0	0	0	1	0
大山町	63	36	27	36	17	19	27	1	0	1	6	5	1	-5	22
南部町	48	29	19	31	23	8	17	2	2	0	6	0	6	-4	13
伯耆町	9	7	2	8	6	2	1	0	0	0	3	1	2	-3	-2
日南町	8	8		7	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
日野町	4	2	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
江府町	2	0	2	3	3	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	-1

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(-)の場合は、転出超過を示す。

注2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。